

手引き⑫

★適切な表現に強くなる

一言に「語句の働き」と言っても、多義語、慣用語、ことわざ、同音異義語などたくさんあります。文章を書くときには、これらを時と場合に応じて使い分けていかなければなりません。

豊かな表現をするために、言葉の決まりを覚え、伝えたい事柄に応じて、語句の意味や表現技法を考えて、使い分けていきましょう。そのためにも、分からない語句に出会ったら、そのままにせずに、辞書で調べる習慣を付けましょう。

適切な表現をするために

気をつける項目	正しい表現	誤った表現による文例と留意点
<p>対応や呼応</p>	<p>① 私が好きなスポーツはテニスです。</p> <p>② A呼応の副詞を使わない場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 彼の言うことはひどくまちがっていた。 B呼応の副詞を使った場合 彼の言うことは全然正しくない。 	<p>↓ 私が好きなスポーツはテニスをすることです。</p> <p>※ 主語と述語の対応がおかしい。</p> <p>↓ 彼の言うことは全然まちがっていた。</p> <p>※ 呼応の副詞「全然」は、否定の語「～ない」を伴わなければならない。</p>
<p>動詞の態（能動態・受動態）</p>	<p>彼が道を聞くと、知らないと言われた。</p> <p>道を聞いたのは：彼</p> <p>知らないと言ったのは：道を聞かれた人</p> <p>思い出を語り合う会としたいと思っ ていますので、先生のご出席を お待ちしております。</p> <p>※ ことわざは使わず、自分の知っ ている言葉で書く。使い方のよ く分からない言葉を無理をして まで使わない。</p>	<p>↓ 彼が道を聞くと、知らないと言 った。</p> <p>※ 「彼」が主語なので、「言った」 を受け身にしないと彼が言った ことになる。</p> <p>↓ 枯れ木も山のにぎわいですが ら、先生のご出席をお待ちして います。</p> <p>※ 「枯れ木も」は、価値のない ものでもないよりはまし、とい うこと。同窓会にお招きする先 生に使う言葉ではない。</p>
<p>ことわざ、慣用語などの使い方</p>	<p>① 泳いでみると、意外と簡単だっ た。</p> <p>② 雨が降った。しかし、体育大会 は実施された。</p>	<p>↓ 泳いで、意外と簡単だった。</p> <p>※ 「泳いで」では、文が続かない。</p> <p>↓ 雨が降った。そして、体育大会 は実施された。</p> <p>※ ここで順接の接続詞を使うのは おかしい。</p>
<p>接続語及び接続語と同じ働きをする語の使い方</p>	<p>笑顔の美しい人がだれにとっても 気持ちのよい印象を与えることは、 確かなことです。</p>	<p>↓ 笑顔の美しい人はだれにとつ ても気持ちのよい印象を与えるこ とは、確かなことです。</p> <p>※ 一文が長くなったため、助詞「が」 は「は」の使い方が混同されてい る。</p>
<p>助詞の使い方</p>	<p>A 常体で書く場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 母の誕生日だ。僕は花束を贈ろうと思う。 <p>B 敬体で書く場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 母の誕生日です。僕は花束を贈ろうと思えます。 	<p>↓ 母の誕生日だ。僕は花束を贈ろ うと思えます。</p> <p>※ 常体（～だ。～である。）と敬 体（～です。～ます。）とを混 ぜて使うことは原則として避け るべきです。</p>
<p>文体</p>	<p>笑顔の美しい人がだれにとつても 気持ちのよい印象を与えることは、 確かなことです。</p>	<p>↓ 笑顔の美しい人はだれにとつ ても気持ちのよい印象を与えるこ とは、確かなことです。</p> <p>※ 一文が長くなったため、助詞「が」 は「は」の使い方が混同されてい る。</p>